中山間地域フォーラム　設立17周年記念シンポジウム

ポストコロナ期の集落の未来

～ローカルコモンズの役割は何か～

■日　時　2023年7月8日（土）**13:00～16:30**（開場12:30）

■会　場　**東京大学弥生講堂・一条ホール**（※会場参加のみ、WEB配信はありません）

東京都文京区弥生1-1-1・東京メトロ「東大前」下車・「農正門」

■参加費　2千円（会場受付時現金にて）■定員　250名

■主　催　特定非営利活動法人　中山間地域フォーラム

中山間地域政策の核となる中山間地域等直接支払制度は、開始から20年を超えて、制度に取り組んできた集落住民の高齢化と減少が進み、農地の担い手への集積にも限界が見えつつある。

日本の農村は、集落レベルで維持管理するための知恵や仕組みを、ローカルコモンズとして作り上げてきたが、その持続性を改めて見つめ直す必要が生じている。

他方、この間のコロナ禍での経験により、人口密度の高い都市生活を客観視できるようになり、リモートワークの導入など働き方を見直す機会にも繋がり、田園回帰の潮流はさらなる広がりを見せている。

今回のシンポジウムでは、ポストコロナの時代に向けて、中山間地域の集落の今を捉えながら、その継承のあり方について、これからの集落像や政策へのアプローチを視野に入れて議論したい。

プログラム

13：00　開会挨拶

13：05　**解　　題**　**シンポジウムのねらいと流れ　法政大学　図司　直也　氏**

13：15　**特別講演**　**「中山間地域の現代的価値を考える～ローカルな知恵に学びながら」**
中山間地域フォーラム会長　生源寺　眞一　氏

13：45　**研究報告**　**「地域づくり～集落自治の枠組みを問い直す」徳島大学　田口　太郎　氏**

14：05　休憩

14：15　**現場報告**（20分×3）

1. **「集落の教科書づくり」：NPO法人テダス（京都府南丹市）田畑　昇悟　氏**
   ＞「集落の教科書」づくり、ローカルコモンズの棚卸しの実践と現場の動き等について
2. **松川町の取り組み：長野県松川町産業観光課　宮島　公香　氏**
   ＞遊休農地を活用した一人一坪農園、有機農業の展開、学校給食への供給等について
3. **高知県における「小さな集落活性化事業」：高知県中山間地域対策課長　安藤　優　氏**
   ＞RMO設立と小規模集落対策を目指す高知県の取組等について

15：15　休憩・質問集約

15：20　**パネルディスカッション：ポストコロナ期における集落の未来を語る**
〔進行・東京大学　西原　是良　氏〕

16：30　閉会挨拶

※プログラムは都合により予告なく変更することがあります。

申込み・お問い合わせ

中山間地域フォーラムホームページの専用フォームからお申し込みください

（お問い合わせもHP「お問合わせ」コーナーをご利用ください）

https://www.chusankan-f.org

【締切り】　7月5日（水）

取得した個人情報は、シンポジウム等の運営目的以外には使用いたしません。